



【旭川大学 50 周年に寄せて】

『50 周年記念号に向けて』

旭川大学副学長 高波 澄子

2019 年 11 月 16 日（土）、旭川大学開学 50 周年・旭川大学大学院開学 20 周年の記念式典が挙行された。1968 年 4 月に北日本学院大学経済学部経営学科が開設されてこの方 50 年である。

旭川大学保健福祉学部は、2008 年 4 月 1 日にスタートした。

旭川大学の教育理念「地域に根ざし、地域を拓き、地域に開かれた大学」を基盤として保健福祉学部は、「地域が抱える医療・保健・福祉問題にアプローチし、問題解決に向けて実践できる医療・福祉専門職の養成」を目指すものである。

2008 年 4 月の入学者は第一期生、当年度の保健看護学科・コミュニティ福祉学科の在籍者は当然ながら 1 年次生のみである。2008 年度保健福祉学部履修ガイド & SYLLABUS を開いてみた。当該シラバスにある保健看護学科 1 年次開講科目における各科目の担当教員名（経済学部教員と非常勤講師は除く）を見ると、そこには 2020 年度現在、本学科に在籍している教員 25 名のうちの 2 名の名前が載っていた。

保健看護学科という、看護師国家試験受験資格を与えるに相応しい卒業生を輩出する学科を増設するのであるから、医療・看護専門科目と演習科目の構成、配置といったカリキュラム編成および当該科目の担当者の選考、そして演習を実践する場の設置や環境整備、さらに臨地実習の場である医療機関・高齢者入所施設の開拓等々、困難で苦渋な道程があったことであろう。その中でも、とりわけ臨地実習施設の開拓は難儀を極めるものである。ところが、旭川市内の基幹医療施設の看護部長さん等が、こぞって実習受け入れを承諾してくださったのである。まさにこの幸運が本学科における看護教育の大黒柱となって、指導体制が順調に構築されていったといえる。

初年度の保健看護学科の運営を振り返ると「大変だったな」の一言である。この印象が強いあまり、他の感情は湧き上がってこないというのが正直なところだ。さあ、保健看護学科が動き出した。まず教員は、長年看護教育に携わってこられた重鎮、本学科へ赴任された現任教員等から構成された。これからの看護を背負う優秀な看護師を養成したいという熱意溢れる、歯に衣着せぬ話し合いと議論、そしてそれらの結果を前向きに実践してゆく地道な連携プレイがあったからこそ、現在の保健看護学科があると確信している。

本保健看護学科が開設されてから 2020 年度で丸 13 年である。

13 年の歩みを経た今、医療環境の変化および看護専門職に求められる質的向上への対応と、そして新型コロナウイルス感染症感染拡大によって臨地（医療機関での）実習ができない厳しい現実と向き合っている。とりわけ深刻な打撃は、看護教育の中核である患者への看護ケアの学びの場と実践の機会を奪われていることである。

見方を変えると、この新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、当該患者の治療にあたる医療機関のひっ迫状況とそれに伴う医療職の激務という厳しい現状を突きつけており、これらが看護専門職を目指す者にどのような影響、変化をもたらすのか、気にかかるところでもある。

これらの現状を踏まえ、少子高齢社会が抱える保健医療福祉問題に果敢に立ち向かう医療・福祉専門職を送り出すため教員一同は、学生と共に学びを深めている。

以上